

第4学年の実践（社会）

- 1 小単元名 受け継がれた文化を守るまち ～浜田市三隅町～
(大単元「島根県博士になろう」のうち)

2 小単元のねらい

- ユネスコ無形文化遺産に登録された石州和紙や三隅町に住んでいる地域の人々の生活に関心を持ち、石州和紙について意欲的に調べる。 【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 石州和紙の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用し、まちづくりに生かしている三隅町の取り組みや人々の思いについて、調べたり表現したりする。 【社会的な思考・判断・表現】
- 地図や資料、インターネット等を活用して必要な情報を集め、人々が地域の資源を保護・活用してまちづくりに生かしている様子を島根県ブックにまとめる。 【観察・資料活用の技能】
- 三隅町の人々が、石州和紙の伝統や技術を守り続けている様子について理解する。 【社会的事象についての知識・理解】

3 情報リテラシー指導の観点

- 課題を解決するために資料を集め、必要な情報を見つける。(情報の収集 D・E・F・G)
- 思考ツールを使って、情報収集したものを分類したり、分類したものから考えをまとめたりする。(情報の整理 J・K)
- 絵や写真、データなどを根拠として、友だちに分かりやすく説明する。(発表・交流 L)

4 小単元設定の理由

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領 第4学年 内容(6)ウ. 県内の特色ある地域の人々の生活について「人々の生活を取り上げ、自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域やそこに見られる人々の生活の特色を具体的に調べる」ことを通して、島根県の特色やよさを考えることをねらいとしている。島根県のよさとして考えられることには、

- ・豊かな自然や美しい景観が残されていること
- ・神楽や祭りなどの伝統文化が残されていること
- ・歴史的な建造物(神社仏閣、城・城址、遺跡など)が残されていること
- ・世界遺産、ユネスコ無形文化遺産、世界ジオパーク等それらが国内外から評価されていること
- ・それらを守るだけでなく、生かそうと努力している人がたくさんいること
- ・豊かな農林水産物や地域の食文化があること
- ・暮らしやすい生活環境、地域コミュニティや、温かな人と人とのつながりがあること

等が挙げられる。これらのよさに気付かせるには、自分たちの住んでいる奥出雲町とは、異なる地域の中から、特色をとらえやすい地域を選択して学習を進めさせたいと考えた。そこで、本小単元では、まず、地場産業の盛んな地域としてユネスコ無形文化遺産に登録された「浜田市三隅町」を学習し、地域の特徴をとらえる学習の仕方を身につけさせたい。次にその学ぶ力を活かし、歴史ある建造物や街並み、

祭り等の地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、観光等の産業の発展や特色あるまちづくりに努めている地域として、世界遺産登録された「大田市大森町」を学習していきたい。

浜田市三隅町を取り上げる理由は以下の通りである。

【地理・自然】

- ・日頃、児童が訪れることの少ない石見部にあり、標高が低く自然環境が子どもたちの住む奥出雲町と異なること。

【文化・産業】

- ・石州和紙は、「和紙 日本の手漉き和紙技術」としてユネスコ無形文化遺産に登録されており、国内外から評価されていること。
- ・原材料は、古くから近隣でとれるものを使い、現在もこうぞとみつまたは地元で栽培され、がんぴは野生のものを使用し、きれいな水のある環境や技術を受け継ぐ人がいること。
- ・三隅町を中心に住む職人の手で紙を漉く技術・技法は、一貫して守られてきており、その技術を守るために石州和紙協同組合や石州和紙会館があること。
- ・石見神楽との深いつながりがあること。三隅町は、石見神楽の盛んな石見地方の中心に位置しており、動きの激しい「石見神楽」には、丈夫な「石州和紙」が適していることや木のお面より大量生産でき、かつ細かい部分を表現しやすいこと。

【他地域とのつながり】

- ・ブータン王国で石州和紙の技術・技法による技術指導を実施し（1986年～）、ブータン王国の技術向上に協力していること。
- ・様々なPR活動を行っており、三隅町のまちづくり生かしていること。

このようなことを調べる活動を通して、自分たちの住む島根県の特徴やよさを考えていくことができると考えられる。

(2) 児童について

(略)

(3) 指導にあたって

本小単元は、調べる地域が遠方であるため、児童が今までのように直接的に見学や調査をしながら問題解決をすることが難しい。そこで、学習を深めるため以下の4つの活動を大切にしたいと考える。

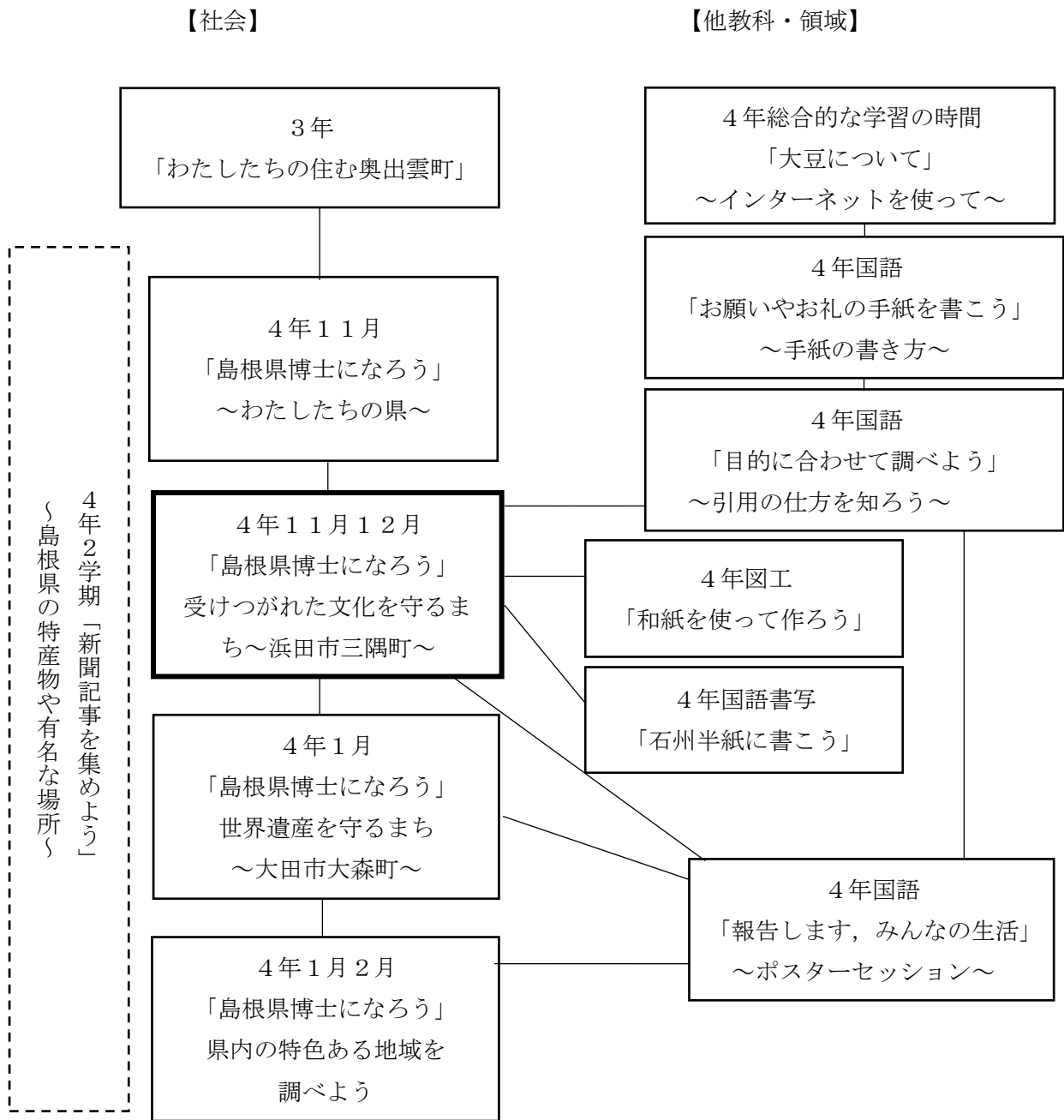
- ・1つ目は、写真や実物、資料（新聞記事やリーフレット）、映像資料を用意し、特色ある地域の様子を視覚的にとらえていく活動である。主に導入場面において提示することで、意欲的な追究活動につなげていきたい。
- ・2つ目は、本やインターネットの活用である。例えば石州和紙の原材料や製造工程についてホームページを利用して調べたり、職人さんの思いを聞くために、関係機関にメール等で質問したりする活動である。メール等の質問については、教師が事前に先方と打ち合わせを行い、学習のねらいにせまる活動の一つにしたい。
- ・3つ目は、思考ツールの活用である。調べ活動に入る前に3グループに分かれ「マンダラート」を用いて、調べたいことを視覚化・整理する。次に「情報カード」を用いて、調べ活動で分かったことを整理する。最後に「クラゲチャート」を用いて、学習課題に対する答えとして考えられる根拠を情報カードから選び、三隅町の取り組みをまとめて、浜田市三隅町の特色をより深く理解する手がかりとしたい。
- ・4つ目は、小単元の終末に「島根県ブック」を作る活動である。この活動は、これまでの学習を振り返り、地域のよさを再確認しながら個人でまとめていく。地域の特色としてわかったことを①宝物 ②宝物についての説明 ③どのように町づくりに生かしているかという観点で整理する。個人でまとめることを通して、『島根県博士』を目指す活動にしたい。

5 単元の指導計画と評価規準

な ろ う ②⑥ 島 根 県 博 士 に	わたしたちの県 (⑤)
	受けつがれた文化を守るまち～浜田市三隅町～ (⑦)
	世界遺産を守るまち～大田市大森町～ (⑥)
	県内の特色ある地域を調べよう (⑧)

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
① 県内の特色ある地域の人々の生活に関心をもち、意欲的に調べている。 ② 自分たちの住んでいる島根県の特色やよさを考えようとしている。	① 県内の特色ある地域の人々の生活について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 県内の人々はそれぞれの地域の特色を生かしてまちづくりをしていることや、それぞれの地域の特色やよさから、島根県の特色やよさを考え、適切に表現している。	① 県内の特色ある地域の人々の生活について、地図や資料、インターネットを活用して必要な情報を集め、人々が地域の資源を保護・活用して特色を生かしたまちづくりに努めている様子を読み取っている。 ② 調べたことを情報カードや思考ツール、島根県ブック等にまとめている。	① 県内の特色ある地域の人々が、自然環境、伝統や文化等の地域の資源を保護・活用して、特色あるまちづくりに取り組んでいることを理解している。 ② 島根県の特色やよさを理解している。

6 他教科等との関連



7 小単元の指導計画

時	○おもな学習活動 ・内容	教師の指導・支援 ◎担任○司書教諭●学校司書	資料・教材 ☆評価規準及び評価方法
一次 1	○学習の見通しをもつ。	◎○●奥出雲町を例にマンガラート, 情報カード, クラゲチャート, 島根県ブックを提示して, 学習の流れがわかるようにする。	☆【関・意・態①】(発言)
二次 1	<ul style="list-style-type: none"> ・島根県には, ユネスコ無形文化遺産等, 国内外から評価されているものがあることを知る。 ・ユネスコ無形文化遺産登録された石州和紙 ・三隅町の位置の確認をする。 ・学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ユネスコ無形文化遺産とは何かを説明する。 ◎地図帳でそれぞれの位置を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・山陰中央新報こども新聞「週刊さんいん学聞」バックナンバー ・石州半紙, 石州和紙の実物
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 浜田市三隅町では, なぜ石州和紙づくりがさかんになり, どのように石州和紙をまちづくりに生かしているのでしょうか。 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○石州和紙について調べたことをグループで考えよう。 ・特徴・材料・どうやって作るのか・どこで作られるか・いつから作られているのか・職人さんは, どんな活動をしているのか 	<ul style="list-style-type: none"> ◎○●思考ツール「マンガラート」で調べたいことを整理させる。 ◎○●調べたいことに対する予想を話し合わせる。 	☆【思判表①】 (発言・思考ツール)
2 ~ 4	<ul style="list-style-type: none"> ○石州和紙についてグループで調べよう。 ・石州和紙会館, 製造元の職人さんに問い合わせる。 ・資料で調べ, 情報カードに書く。 	◎○●調べ活動がスムーズにいくよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パスファインダー参照 ☆【技能①】(情報カード) ☆【思判表②】 (発言・情報カード)
5 本時	○石州和紙について調べたことをもとに, 石州和紙を生かしたまちづくりの取り組みについてグループで話し合い, 意見をまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ◎○●思考ツール「クラゲチャート」を使い, 学習課題について考えさせる。 ◎○●活動がスムーズにいくよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆【思判表②】 (発言・思考ツール) ☆【知理①】 (発言・思考ツール)
6	○浜田市三隅町の島根県ブックを作ろう。	◎前時までの活動を生かし, 「三隅町の宝物について」「まちづくりに宝物をどのように生かしているか」をまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ☆【思判表②】 (発言・島根県ブック) ☆【知理①】 (発言・島根県ブック)

8 本時の学習

(1) ねらい 石州和紙をまちづくりに生かす三隅町の取り組みに気づくことができる。

【社会的な思考・判断・表現】

(2) 展開

学習活動	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	教師の支援(◎担任○司書教諭●学校 司書) と評価 (☆)
1. 本時の学習を 確認する。		◎本時のねらいを確認し, 学習の流れ について説明する。
石州和紙をまちづくりに生かす三隅町の取り組みをグループで話し合ってみよう。		
2. グループで話 し合い, 意見をま とめる。	○情報カードをもとに, まちづくりに生 かしていると考えられる取り組みにつ いてまとめよう。 話し合いの進め方 ① 取り組みとして考えられることを 情報カードから選び, 選んだ理由を一 人ずつ発表する。同じ情報カードを選 んだ時も一人ずつ選んだ理由を発表 する ② 友達の理由を聞き, くわしく聞きた いことがあれば質問をする。 クラゲチャート ・別紙参照	◎○話し合いの進め方や「クラゲチャ ート」の使い方を確認する。 ◎○●話し合いの時, 自分の考えた理 由がうまくまとまらない児童につい ては, 情報カードで内容を確認し, 考 えた理由が言葉で説明できるよう助 言をする。 ☆【思判表②】 (発言・思考ツール)
3. グループ内で 話し合ったこと を発表する。	○グループ内で話し合ったことを発表 しよう。 ・人…努力, 伝統, 技術 ・環境…材料, 水 ・つながり…石見神楽, 外国	◎自分たちの話し合いと他のグルー プで話し合った内容について比較し ながら聞くように促す。 ◎人, 環境, つながりという面から整 理する。 ☆【思判表②】(発言・思考ツール) ☆【知理①】(発言・思考ツール)

(3) 本時の評価

A 十分に満足できると判 断される児童の具体例	B おおむね満足できると 判断される児童の具体例	→支援を必要とする児童への指導の手 立て
グループ活動での話し合い に積極的に参加し, 三隅町 の取り組みや生活する人々 の思いに気づいている。	グループ活動での話し合い を通して, 三隅町の取り組 みに気づいている。	→情報カードで内容を確認し, 言葉で理 由が説明できるよう助言したり一緒に 考えたりする。 →友達の意見を聞き, 考えるように声 かけをする。

(4) 研究の視点

- ①ねらいを達成するために思考ツールを使ったことは、有効であったか。
- ②グループ学習を設定したことは、主体的・対話的な学習を進めていく上で有効であったか。
- ③担任・司書教諭・学校司書の働きかけは、学習を進めていく上で有効であったか。

9 パスファインダー

【調べる手がかりとなるキーワード】

石州和紙, 石州半紙, ユネスコ世界無形文化遺産, 浜田市三隅町伝統的工芸品

(1) 事典, 図鑑

書名	分類番号
総合百科事典 ポプラディア6 すせそた	0 3 1
ポプラディア情報館 伝統工芸	7 5 0
日本地理	2 9 1
中国・四国地方	2 9 1

(2) 図書資料

書名	分類番号
もっと知りたいしまねの歴史	—
わたしたちの島根	—
島根 PR 本 しまね図鑑	—
世界遺産になった和紙1～4	5 8 5
日本の伝統美と技の世界	7 5 0
しまねの手の技ふるさと伝統工	7 5 0
産地別すぐわかる和紙の見わけ方	5 8 5
伝統工芸のきほん5	7 5 0
しまねの名工たち	7 5 0
ふるさとの50人	2 8 0
しまねの伝統工芸 (パンフレット)	—
石見神楽 おもしろ鑑賞ガイド	3 8 6

(3) 新聞 ・山陰中央新報 まなぶん学聞 2014年12月31日号、2015年12月9日号

(4) 人に聞く

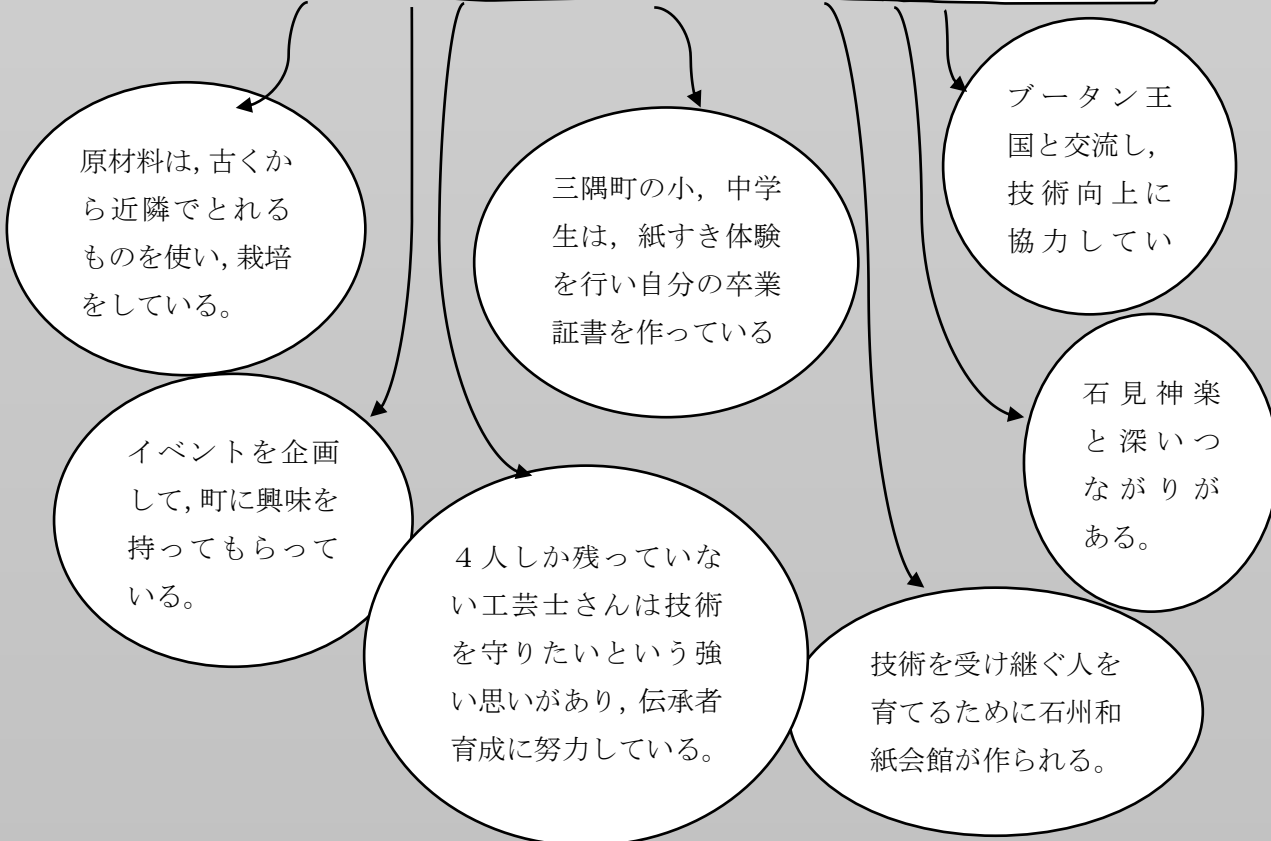
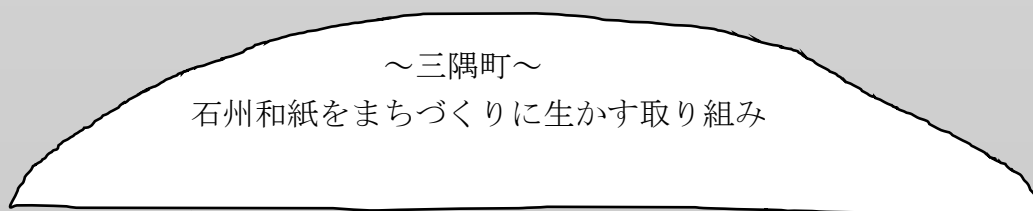
- ・石州和紙協同組合 (電話・ファックス・メール)
- ・石州和紙会館 (電話・ファックス・メール)

(5) インターネット

- ◎石州和紙ホームページ
- ◎石州和紙会館ホームページ
- ・浜田市ホームページ 石州和紙 石州半紙 ブータン王国

- ・かわひらホームページ
- ・石州和紙久保田ホームページ
- ・西田和紙工房ホームページ
- ・西田製紙所ホームページ
- ・碧い石見の芸術祭ホームページ

クラゲチャート・・・予想される児童の思考の流れ



石州和紙をまちづくりに生かす三隅町の取り組みをグループで話し合ってみよう。

【授業の実際】

① 本時まで

石州和紙についての調べ学習

単元のゴール【浜田市三隅町の島根県ブックを作ろう】に向けて、石州和紙について見たり触れたり調べたりして、石州和紙がどんな和紙なのかを調べる活動を学習した。

☆単元の導入

単元の導入は、司書教諭・学校司書と連携を図りながら、学習の流れのイメージをつかむことをねらいとして行った。児童は、3年生の社会科で奥出雲町について学習しているので、奥出雲町の雲州そろばんを取り上げて学習の見通しをもたせた。担任・司書教諭・学校司書のデモンストレーションでは、まず、調べたいことを視覚化・整理するために「マンダラート」を用い、次に、本や資料などを使って調べたことを「情報カード」にまとめ、最後に、雲州そろばんをまちづくりに生かす奥出雲町の取り組みを「クラゲチャート」に整理してまとめ、発表につなげた。児童は、雲州そろばんについて学習しているので、つぶやきも多く、児童の反応や表情から学習の流れがつかめたようで、分かりやすい導入ができた。

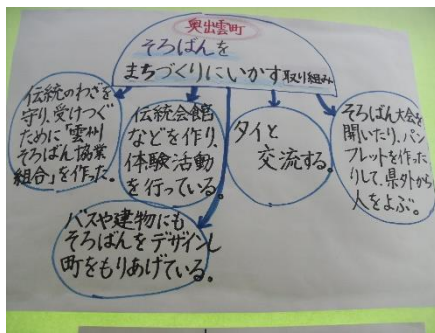


(マンダラート)

(クラゲチャート)

(島根県ブック)

よさ	広めるためのPR活動	他の地域のつながり
作る人の思いや工夫	雲州 そろばん	作る人の数
材料は何か	どうやって作っているのか	いつから作られるようになったか



市町村	奥出雲町
名前	雲州そろばん
宝 絵	
物 説明 (人々の思い)	伝わる工芸品 4人しか作れない 手作りの良さを守りたい
どのようにまちづくりに生かしているか。	伝わるのわざを守り、受けつぐために「雲州そろばん協業組合」を作った。 バスや建物にも、そろばんをデザインし、町を盛りあげている。

☆他教科とのつながり

児童は、和紙自体に触れるという経験がほとんどなく、石州和紙については、見たこともないという実態だった。実物を見たり触れたりすることも調べる学習にとって有効だと考え、調べ学習と並行して、他の二教科で和紙を取り上げて学習した。「書写」では、石州半紙に書いた。いつも使用している半紙とは違いがあることにすぐに気づき「色が違う」「厚い」「ザラザラしてる」等々、喜んだり緊張して書いたり、児童の反応は、それぞれだった。

「図工」では、和紙を使って、ちぎったり、水を混ぜてこねたり、ねじったり、色をぬったりして、壁飾りを作った。普通の紙と違って「水にぬれても丈夫だ」「繊維がある」「やぶりにくい」等々、図工でも和紙の感触を楽しみながら、活動することができた。



☆情報カードの分類

課題について主に図書資料で調べていくが、内容によってはホームページで調べ、それでも解決しない課題については、直接、職人さんへ質問メールを送って答えてもらうことができた。調べた内容についてもさらに調べたい語句が出てきて調べていったので、情報カードの量がかなりの枚数になった。そこで、本時での活動をスムーズにするために「石州和紙のこと」「石州和紙に関わる人・もの・自然などの環境」に分類・整理した。また、語句について調べたカードは、自分のファイルにとじていった。分類することで、本時に向けての情報が整理され、グループみんなで調べて分かったことを共有できた。

②本時

石州和紙をまちづくりに生かす三隅町の取り組みをグループで話し合ってみよう

児童は「石州和紙に関わる人・もの・自然などの環境」に分類・整理した情報カードからまちづくりに関わるカードを選び、クラゲチャートを使用して、まちづくりに生かす取り組みについてまとめた。

☆グループ活動（児童同士の関わり）について

児童は、個々にたくさんの情報カードを手にしていった。事前にグループ内で、情報カードを分類・整理し、情報を共有することにより、個の情報をグループの情報としてとらえることができ、クラゲチャートを使って児童同士で主体的にまとめていった。抜粋①にあるように、それぞれグループに入った担任・司書教諭・学校司書は、話し合いの様子を見守る程度だった。また、全体発表においては、自分の言葉で発表したり地図や資料を提示しながら質問に答えたりする姿も見られた。（抜粋②）

[グループ活動より～児童同士が主体的にまとめる姿の見られた場面・抜粋①]

C1 : 私は、手すき。機械ではないところがみんなに認められたから。

C2 : PR活動は、全部、取り組みだと思う。

T : 理由も言っていくか。

C2 : 石州和紙会館ができたことが、まちづくりに生かすと思う。そこでは、こうぞの木の皮をはぐ体験ができる。体験することは、石州和紙を作る人を増やすことにつながると思う。アジアのブータンとの交流で石州和紙を送っていることもまちづくりに生かすことだと思う。

T : 質問がありますか。 C : ありません。

C1 : 手すきだと思う。人が頑張った方が認められるから、まちづくりにつながると思う。地元だけで栽培もあると思う。良質と書いてあったから、いい材料しか使わないと思う。体験形式。これもみんながおもしろそうと三隅町に行きたくなる取り組みだと思う。

C3 : PR活動で、まちづくりに生かすイベントを開いている。遊びや体験をすると・・・

C2 : まちの良さが伝わる。

C1 : 分かるよね。

T : 今話したことをクラゲチャートに書いていこう。短い言葉でね。

[全体発表より～クラゲチャートを使って発表する活動より抜粋②]

C1 : 1班が見つけたのは、自分の卒業証書を手すきで作っている取り組みです。新聞記事に取り上げら

れているし、PR活動にもなると思う。

C2 : ホームページの中に石州和紙の新聞が載っていました。

C3 : ホームページでイベントを紹介しているよ。

C4 : 石州和紙で色々なものを作っているし、ブータン王国と交流をしています。

C : 色々なものとは、どんなものですか？

C4 : (情報カードを取ってきて) 石州和紙でパーカー、くつ、石見神楽のおろちの胴、せんす、イヤリング。色々なものを作っています。

C : ブータン王国は、どこですか？

C2 : (地図帳を取ってくる。地図をみんなに見せながら、) 小さいですが、ここです。



☆担任・司書教諭・学校司書の連携について

担任が、児童の情報カードを把握しており、事前に、予想されるグループ活動や全体発表の場面を想定して伝え、まちづくりに生かす取り組みを考えるという学習のねらいを達成するために、このような支援をしてほしいということについての打ち合わせを行った。このような打ち合わせを経て、3つに分かれたグループ活動では、活動を見守るという姿勢で各グループに入ることができ、ねらいから外れることなくまとめることができた。全体発表では、予想通りの質問が出て、司書教諭と学校司書がタブレットで補足説明をすることができ、より分かりやすい支援になったように思う。

③本時以降

世界遺産を守るまち～大田市大森町～

世界に認められたという視点で「世界遺産に登録された石見銀山」を取り上げた。本時と同様、グループで行った。まずは、石見銀山についての課題を「マンダラート」で視覚化・整理した。但し、石見銀山の歴史的な背景や歴史を調べるのではなく、世界遺産を守るまちについて調べるようくり返し声をかけた。次に本や資料、ホームページで調べたり、直接FAXで質問をしたりした。情報カードをもとに「石見銀山をまちづくりに生かす大森町の取り組みをグループで話し合ってみよう」では「クラゲチャート」を使ってまとめ、発表会を行った。

県内の特色ある地域を調べよう

四次には、特色ある地域について個人で調べる活動を行った。取り上げる特色ある地域は、「わたしたちの島根」で取り上げられている地域に絞った。ただし、資料が手に入りやすい地域を扱うことにした。学習の流れは今までと同様なので、学習の流れはスムーズだったが、個人という点で支援が必要な児童も数名いた。

【児童が取り上げた市町村】・・・一人1市町村

- (1) 松江市 (宍道湖)
- (2) 益田市 (高津川)
- (3) 益田市 (わさび)
- (4) 隠岐の島町・西ノ島町・海士町・知夫村 (自然・観光)
- (5) 松江市宍道町 (出雲石どうろう)
- (6) 出雲市 (ぶどう)
- (7) 出雲市 (出雲大社)
- (8) 出雲市 (米)
- (9) 浜田市 (水産加工品)
- (10) 松江市 (松江城)

【成果と課題】

成 果

① 単元を通したねらいとして「島根県博士になろう」とし、小単元の終末に「島根県ブック」を作る活動を設定したことは、児童が学習に意欲的に取り組み、それぞれの地域の特色を生かして、まちづくりに取り組んでいるというまとめが個人ででき、小学校社会科の目標にある「社会的な見方・考え方」を働かせる活動としても有効であった。

事前に行ったアンケート結果と事後に行ったアンケート結果の比較からも有効であったと考えられる。

・島根県（奥出雲町を除く）のことをよく知っていますか。 はい（0人→10人）

・島根県で有名なものはどんなものがありますか。

石州和紙（0人→5人）、石見銀山（5人→10人）、松江城（2人→8人）、宍道湖（2人→7人）、その他、事前アンケート用紙には出てこなかった高津川・来待石の石どうろう・隠岐の島（世界ジオパーク）・わさび等、学習で取り上げた特色ある地域で取り上げたものについて答えていた。

② たくさんの本や図鑑、パンフレットなどの資料に付箋をはり、課題について調べられそうな情報の在りかを分かるようにしたことは、初めて読む図書資料でも抵抗なく読み、情報カードにまとめていくのに有効であった。

③ 思考ツールを課題設定の学習場面と学習のまとめに活用したことは、学習の過程で、思考の焦点化・思考の深まり・思考の視覚化・整理につながり、グループでの話し合いや全体発表での言語活動を支えるものとして有効であった。

④ 司書教諭・学校司書が中心となり、単元の調べ活動で使用する図書資料の収集に「図書館資料センター（カルチャープラザ）」を利用したことで、個々の課題に対応できる量の図書資料を短時間で準備することができ、調べ活動を活発化するものとなった。

⑤ 新聞記事の資料として「さんいん学聞（まなぶん）」を使用したのが、子ども向けの新聞で読みやすく地域の特色を取り上げた記事が多く掲載されているので、児童が扱いやすい内容だった。

⑥ 授業の構想の段階から授業を進めていくまでを研究部・司書教諭・学校司書と一緒に考え、授業を担当・司書教諭・学校司書の三者体制で行ったことで、社会科の目標と学校図書館活用の目標の両方を兼ねる単元の構想を練ることができ、ドリーム図書館が学習センター・情報センターとしての機能を果たすことができた。

課 題

① 小学校社会科の目標～教科の目標を意識した授業づくり～

本時のふりかえりにおいて「気づいたこと」を児童に発表させるのではなく、授業者がクラゲチャートを使って意図的に本時のねらいに導くべきだった。三隅町の取り組みを知ることでどんなことを学ばせたいかという意識が足りなかった。「どんな問い」で「どんなことを考えさせたいか」また「単元をつらぬく問いは、何か」「なぜ、三隅町を取り上げたのか」が曖昧だったように思う。また、授業のまとめ方として、「奥出雲町と共通点がある（地域の自然を生かしている。伝統や文化を守っている。伝統や文化を生かした「まちづくり」を行っている。）」というまとめ方もあった。

②語彙が少ないという児童の実態

昨年も挙げられていたが、児童の語彙が少なく、調べ学習を行っても一つ一つの言葉の意味が分からず、単語を調べることに時間がかかってしまい、本題について調べることができなかったり、情報カードの量が多くなりすぎたりしたので、予定時数を超えてしまうことがあった。

③地域を学ぶ資料の少なさ

小単元の「県内の特色ある地域を調べよう」で取り上げる地域を選ぶときに、「わたしたちの島根」を参考にして一人一市町村で取り組んだが、地域を学ぶ資料が少なく、市町村を変更したりFAXで直接質問したりしたので、調べ学習に向かうまでに時間がかかってしまった。毎年、授業を積み重ね、資料も積み重ねていきたい。

初めてFAXします。

私は、奥出雲町立布勢小学校 4年生を担任している園山明美です。

先日、少しお話させていただきました児童の質問がぞろいきました。社会科の時間に「石見銀山～世界遺産を守るまち～」ということで『大田市大森町の伝説や街並みを守る取り組み』について調べまわっています。児童のもった疑問について、リーフレット、パンフレット、本、インターネットなどを活用して調べましたが、以下に書かせていただいた疑問については、解決できませんでした。そこで、石見銀山ガイドの会の方々に、直接聞いてみたいということになりました。大変お忙しいところ恐縮ではございますが、分かる範囲で構いませんので、答えていただけますようお願いいたします。よろしくお願いたしました。

●児童の質問●

①ガイドさんたちは、仕事としてガイドをしておられますか。それともボランティア活動としてガイドをされていますか。

②世界遺産を守る取り組みは、ガイドさんとして、どんなことをしておられますか。

③ガイドの人は、一日何人の人がガイドとしておられますか。当番などで分担されていますか。

④ガイドさん一人は、一日何人の人を案内しておられますか。

⑤ガイドをされていて、どんな工夫をしておられますか。

⑥ガイドをされていて、うれしいことは、どんなことですか。

⑦2018年の観光客の数は、何人ですか。また、その中で外国人観光客は何人ですか。

⑧ここ10年間で観光客の数は、増えていきますか減っていますか。また、外国人観光客の数は、増えていきますか減っていますか。

奥出雲町立布勢小学校
4年生

担任

FAX

奥出雲市立布勢小学校
先生

2019年1月28日

石見銀山ガイドの会

ご質問への回答

ご質問をお寄せいただきありがとうございます。

①ガイドさんたちは、仕事としてガイドをしておられますか。それともボランティア活動としてガイドをされていますか。

A. ボランティアで活動しています。
ただし、ガイド料は、お客様から頂きその55%をガイド手当としてガイドした人に支払っています。
A. ボランティア費、資料代などガイドに必要な経費はお客様からいただく(実費弁済)と弁当代、交通費、有償ボランティアと言っています。
現在全国のガイド組織の8分の2くらいは有償ボランティア組織です。

②世界遺産を守る取り組みは、ガイドさんとして、どんなことをしておられますか。

A. ガイドの一番の仕事は、世界遺産の意義と価値を伝えることです。
世界遺産を守る取り組みとしては、ガイドをする地域に危険なところがないかいつも気を付けていて、危険な状態のところを見つければ、市役所に連絡するほか、自分たちで処理できることであれば処理しています。
また、草刈りや清掃活動も地域のみなさんと協力して取り組んでいます。
ガイドをしている時におちているごみを拾っています。

③ガイドの人は、一日何人の人がガイドをしておられますか。当番などで分担されていますか。

A. 2018年は、一日平均約11人がガイドをしています。
ガイドは全員、毎月予定表を提出して、いつ自分がガイドできるか事務所に知らせます。事務所で、ガイドできる日とガイドをする日の割合が、みんなが同じになるように担当のガイドを決めています。ただし、毎月最低8回はガイドをしてもらうようにしています。(昨年は、できる日の50%くらいのガイドをしています。80回できるとした人は15回、20回できるとした人は10回、3回できるとした人は8回(100%)です。

④ガイドさんは、1日何人の人を案内していますか。

A. 2018年は、一人平均約7人の香燐をご案内しています。

⑤ガイドをされていて、どんな工夫をしておられますか。

A. お客様に安全に歩いていただくことに特に気を付けています。そのため、お客様全体が見えるように、歩くときは、お客様の方を見て、ガイドはできるだけ後ろ向きに歩くよ

うにしています。
 お客様との約束した時間を守るために、約束した時間の 30 分前には待ち合わせ場所に
 行くようにしています。そして約束した時間までに終わるようにしています。
 分かりやすくご案内するために、写真や資料や具休物（銀、灯りなど）などをお見せす
 るようにしています。
 分かりやすくご案内するために、なるべく難しい言葉を使わないで、一か所では 3 分以
 内でお話しするようにしています。
 全国各地からお見えになるので、おいでになる土地と石見銀山のつながりを含めてご案内
 内できるように努めています。
 分かりやすくご案内できるように、毎月 1 回勉強会をしています。
 そのほか、他のガイドのいいところを学ぶために、他のガイドがお客様をご案内すると
 きついて歩くことで、そのほかにも個人個人で様々な努力をしています。

- ⑥ ガイドをされていて、うれしいことは、どんなことですか。
 A. けがなく無事にご案内を終えること。
 が外と歩いて、楽しかったと言われること。
 なぜ世界遺産なのかなどよく分かったと言われること。
 大森の町や町の人は素晴らしいですねと言われること。
 また来ますと言ってもらえること。(実際に後日来てもらえらること)

⑦ 2018 年の観光客の数は、何人ですか。又その中で外国人観光客は何人ですか。
 ⑧ ここ 10 年間で観光客の数は、増えていきますか減っていきますか。また、外国人観光客の
 数は増えていきますか、減っていきますか。

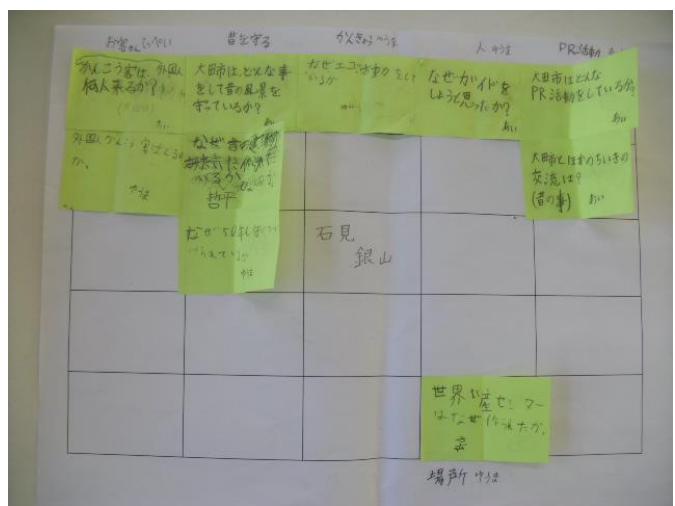
A. ⑦⑧一括してお答えします。2018 年の観光客数は発表されていませんので、2008 年
 (10 年前)と 2012 年～2017 年のデータをお知らせします。

年	観光客数	外国人観光客数	龍源寺間歩入場者数
2008 年	813200人	—	363814人
2012 年	432000人	1296人	150529人
2013 年	511600人	1808人	186089人
2014 年	437100人	1646人	149143人
2015 年	375600人	2339人	121211人
2016 年	313600人	2805人	101646人
2017 年	324800人	3944人	105715人

※外国人観光客数は有料施設入場者数の合計です。有料施設に入らない人もいるので実数
 はこれより多くなると思います。
 ※観光客数は、立ち寄った施設の合計数とその他を加えています。
 ※龍源寺間歩入場者は実数です。ですから実際の来訪者はこの数に近いと思われます。現
 在は、龍源寺間歩へ行かない人が、来訪者の 20%くらいはいると思われまので、間歩入
 場者×1.25 くらいが実際の来訪者ではないかと考えています。2017 年なら 1332143 人と
 いうことです。
 回答は以上です。何かありましたら、
 いただければお返事できると思います。

メール

【資料】 実際の「マンダラート」と「島根県ブック」



市町村	大田市大森町
名前	石見銀山
宝	絵
説明	石見銀山のために銀 を守るために町のかんきょうに やさしくしたい。
どのように まちづくり に生かして いるか	町は、今でも町は昔の 風景のまま石見銀 山はきれいだ。かみこ を穿かなくている人たちが石 見銀山を世界遺産とな っているから町は自然にやさ しい。